



～圃場の準備について～

直播栽培において苗立を確保するために圃場の均平を図ることは非常に重要となります。耕起作業は**耕深14～15cm**を目標に行ってください。代掻き作業は移植と同様に少なめの水で丁寧に行いますが、過度な代掻きは土壌還元や表層剥離の原因となりますので注意しましょう。

～コーティングと播種後の管理～

【カルパーコーティングの場合】

浸種・催芽 浸種中の水温が高いと、浸種中に目が伸びすぎてしまう場合がありますので水温に注意しましょう。**催芽長は0.5～1mm程度**とし、伸ばしすぎによるコーティング作業時の芽の欠損に注意しましょう。

落水出芽 **播種後1週間～2週間程度落水**とし、土壌に酸素を供給して出芽を促してください。その後出芽が8割程度確認出来たら浅水管理を行ってください。

【鉄コーティングの場合】

浸種・催芽 **浸種は行いますが、催芽は行いません。**鉄コーティングの場合はコーティング後に熱を持つため、芽が出ている状態では芽が焼ける可能性がありますので浸種中に発芽しないように注意してください。コーティング後は発熱しますので薄く広げ十分に酸化・乾燥させてください。

入水出芽 鉄コーティングは酸素供給効果はないため、表面播種となります。**深く埋没させないように注意してください。**播種後はすぐ入水し、5日～7日間かけて自然落水で出芽を促してください。

播種作業は好条件の日を選んで行いましょう！

播種作業は日平均気温が12℃以上を確保できる日に行ってください。12℃以下となる日に播種作業を行うと出芽率が悪くなり、苗立率も著しく低下しますので注意が必要です。また、降雨や風の強い日は播種精度が低下しますので好天の日に行ってください。

～雑草防除について～

直播栽培は雑草の発生が比較的が多い傾向があります。雑草の発生は稲の生育停滞に繋がりが、雑草の多い圃場には斑点米カメムシ類等の病害虫の発生が多くなりますので、雑草が小さいうちに確実に防除するようにしましょう。